

第45号

2021年10月15日

公益社団法人隊友会
横浜南支部
責任者 五島浩司



☆国民と自衛隊とのかけ橋
☆会員と関係者との相互の親睦と情報交換

隊友よこはま南

平和の祭典で感じたこと

横浜南支部長 五島浩司



コロナ禍で迎えた東京オリンピック・パラリンピックは当初賛否両論あったものの、多くの制約の中でも大きな問題もなく、日本選手の大活躍もあって開催を反対していた意見は影を潜め、一定以上の評価を得たようだ。私にとって2度目の東京五輪で、1度目の1964年は、もちろんブラウソンの白黒テレビの時代、6歳の私に当時の記憶は殆どない。今回はおそろしく私が目にする最後の自国開催という思いで、テレビで

開会式を見た。コロナ禍で無観客はやむを得ないし、密を避けて少々間延びした選手入場も仕方ないと思いつながら、私の目を引いたのは数多くのドローンが地球や市松模様エンブレムを描く光のパフォーマンスだった。「日本の底力！」と勘違いした人もいるかもしれないが、残念ながら今回使用されたドローンは米国企業製である。重量は340g、ローターの直径が15cm、4個のLEDを搭載した1824機の小型ドローンがGPSと地上に設置した基準局からの位置情報データによって高精度の測位を可能とする技術を活用して数cm以内の誤差でプログラム飛行し、LEDの光が複雑な模様を描いた。ドローンパフォーマンスは専用ツールでアニメーション動画を作成することから始まり、そのデータを取り込み、ドローン飛行をシミュレーションする。ドローンに影響を与える風などの気象データも加えて、各ドローンの飛行経路を決めていく。驚くことに、それは1台のPCで全てのドローンを制御している。おそらく1回目の東京五輪が開催された1964年には誰も予想できなかった技術だろう。

勿論、その見事なドローンのコントロールに驚かされたのだが、その一方で現役時代にミサイル護衛艦で対空戦闘に関わってきた者としては「人口知能が進歩し、センサーや武器を搭載した多数のドローンによって攻撃されたら、たまったものじゃない」と平和の祭典には到底相応しくないようなことも感じてしまった。確かに、これは現時点で人工知能大国が目指す軍用システムのレベルではないのは明白である。ドローン・スウォーム(ドローンの群れ)戦術は、各ドローンが自己判断で自律して戦闘する兵器であり、進化した人工知能とセンサー、通信ネットワークを使って情報を統括して攻撃する自律戦闘型のドローンである。敵、味方、非戦闘員を識別して戦闘を行うにはさらに高度な人工知能を完成させる必要がある。ただし現状のレベルでも戦場に投入することは可能で、実際、サウジアラビアの石油施設の攻撃などに既に使用された可能性が高い。

ロシアと中国は4年前に人工知能に対して、かなり前向きなスタンスを示している。プーチン大統領は、「人工知能はロシアのみならず、全人類にとっての未来である。誰であれ、この分野の先駆者となる者こそが世界の支配者になるだろう。ある国のドローンが他国のドローンによって破壊された時、降伏する以外に選択肢はなくなるだろう。」(2017.9.1)と明言している。また、中国国務院は「次世代における人工知能開発計画を公布する通知(2017.7.8)」で軍民統合の人工知能技術の強力な推進を掲げている。このような中、軍事用途に使われる人工知能にかかる重大な懸念が指摘されている。それが完全自律型の致死性兵器である。これは人間が関与することなく標的を判断し、殺傷する無人兵器で、キラーロボットとも言われている。人工知能に対して人間がどのように制御すべきか、世界的な議論が求められているものの、現状では人工知能を軍事用途に使用する各国の思惑は様々である。このままであれば、残念ながらドローンパフォーマンスを見た私が感じた不安はそう遠くない将来、現実のものとなるかもしれない。次に日本で開催されるオリンピックが開催される頃には、戦闘様相は激変しているだろう。

我が国の防衛白書には、「人間の関与が及ばない完全自律型の致死性兵器の開発を行う意図はなく、また、当然のことながら国際法や国内法により使用が認められない装備品の研究開発を行うことはないと明記されている。最近ではめつきり影を潜めている学術会議の軍事的安全保障研究に関する声明が頭を過ぎる。「戦争を目的とする科学の研究

は絶対に行わない」というものである。防衛装備庁の安全保障技術研究推進制度に対しても、「研究成果は、時に科学者の意図を離れて軍事目的に転用されるため、まずは研究の入り口で研究資金の出所等に関する慎重な判断が求められる」と、科学者とは思えない屁理屈で拒絶している。民用技術と軍用技術に明確な線引きなどできる筈がない。人手不足で苦しむ農家の老人がドローンで農薬を散布する、災害が発生しても即座に人間が支援に行けない山岳地方や離島へドローンが支援物資を輸送するのは理にかなっているが、使用者の意図によっては、農薬や支援物資が容易に生物兵器、化学兵器に代わる可能性がある。人間を感じて衝突を回避する自動運転車を真逆に衝突するようプログラム修正することも容易だろう。イランは米軍がアフガニスタンで偵察や攻撃に使用したドローンを回収、分解してその技術を習得したと言われている。イエメンのドローンは殆ど民生品で作られており、プロペラは中国製、GPSとセンサーはウクライナ製、制御装置は韓国製で、プラモデル店などで容易に手に入る。

兵器を作らない、使わないという国の意志は尊いが、その脅威から国民の生命や財産を守るための研究も尊いはずだ。そう遠くない将来、後輩は我々の経験したことの無い脅威から国民を守ることになるだろう。戦場において、人工知能を人間に取って代えてしまうのは危険だが、指揮官がより迅速かつ適切に判断することを手助けし、戦闘員の負荷軽減などに大きく寄与する「ツール」としては大いに期待できる。我が国としては緊密な産学官連携をもって、早急にこの後れを取り戻す努力が望まれると感じた次第である。

敗戦・そして引揚げ・帰国

海自OB 野口 淳

前号から続く

さて、不安を抱えた昭和21年を迎えた。これから先どうなるのか、疑心暗鬼の内に何も手に付かず、日数だけが過ぎて行つた。

寺子屋学習

敗戦にはなつたものの、学校は8月から9月にかけて続けられたが、前述のとおり10月13日の勅語、国旗焼却式を以つて閉校となつた。

私達は、学校に行く必要がなくなり園外に出ることを禁じられたが、幸い園内は広く遊びには不足ないので、4、5日は遊び呆けていたが、学童を持つ6軒の親達が相談の結果、幸い11号のKご夫妻が、これ迄他の学校の先生を

して居られたので、お願いして寺子屋ならぬ、塾を開いて貰えることになつた。ご夫婦で、高学年と低学年に分けて受け持つて頂き、毎日午前中はKさん宅に通うことになつた。

他に7号のMご夫妻は外国暮らしが長かった事から、こちらとは別に、引き揚げる際に必要な簡単な英会話を教えてもらうことになり、「My name is Jun Ozawa」、「I have two baskets」等、戦時中は厳禁であつた敵性語を学ぶことになつた。

食料と燃料

戦後、中国経済は物凄いインフレとなり、物価は毎日高騰変動し、戦時中の何百倍にも跳ね上がり、物を買うのに靴一杯の紙幣を持つて行つても、満足に買物が出来ないという現象を呈し、邦人はもとより当の中国人も生活苦に見舞われていた。

賑やかな市場や、露店の多い北新橋(Bei Sin qiao)の八百屋や肉屋の親爺も、余りにも高いので少ししか買えない私に、気の毒そうにおまけしてくれることだつた。

このインフレに対応する為か、法幣なる紙幣が出現、これは紙幣額面の4倍の価格を有するものとされ、多額の紙幣の持ち歩きを軽減させる狙いだったのかと思われる。

この為我が家では、大量の米を買うことを控え、何時帰国できるか見通しのつかない現在、無制限に現金を使う訳には行かなかつた。

中国人が主食にしている粟を米の中に混ぜ、さらに喉通りをよくする為、糯米を少々混ぜ込んだお粥にして、食いつなぐことになつた。

しかし、お粥は消化が良く、動き回っているとお腹が空くので、食べ盛りの私にとつては辛い試練であつた。

暖房用の石炭は、父の勤めていた華北交通(株)が解体された際、トラック7、8台分の石炭を分配して貰え、運んで来ることが出来たが置き場所に困り、園内のあの綺麗な広い月見堂が、一夜にして石炭の山で占領されるという事態になつた。これを11軒が自由で使用しても一冬は大丈夫という見通しで、寒い思いはせずに済んでいく。

故同を回るポンポン屋

引き揚げて行くのだから、持つて帰れない不要な家財道具は処分しようとして、邦人家庭では整理を始めた。これを買取ろうと中国人の屑屋が、銀貨位の小さな太鼓を、割り箸ほどの細い棒で、ポンポンと音を鳴らしながら、天秤棒に籠を担いで回っていた。

鍋、釜、布団、衣類、靴等、ありとあらゆる物が買い集められ、当初は郊外の天壇近くで、莫産を敷いて売っていたのが、余りの繁盛でこのガラクタ市は、あつという間に全市に蔓延して、東単、西単、前門外等で催され、特に東単の、寡つて各国の軍隊が馬を走らせたりしていた広大な練兵場が、露天市で埋め尽くされ、さらにこの人

出を見込んで食べ物売屋台が立ち並び、莫藪の上に五段の雛人形セツトや、女性の長じゅばんが広げられ、哀れを誘っていたとある。

集結、引き揚げ

3月上旬、居留民団から待ちに待った、引き揚げの為の集結通知が来て、いよいよ私達も、組織された梯団の一つに組み込まれ帰国できることになった。

携行荷物は、各人が自力で持てる範囲内に限り許可するという通達が、中国側から出されたので、各家庭はそれぞれ自分が持てるだけの、荷物の梱包を工夫し始めた。

通達に、中国で製造されたものは、マツチ一本持ち帰ること罷りならぬとのことで、特に写真類は一切不可とされ、もし万一検査の際見つかった時は、その梯団全員の帰国を取り止めにするとの話であり、家族の写真はもとより、学校の集合写真類も、すべて捨てて来た人が多かった。

父は、写真位で・・・と多寡を括ったのか、背負って持ち帰る布団の綿の中に少しづつ忍ばせて、まんまと持ち帰る事に成功している。これは後日、北京城北会（城北校出身者の同窓会、約120人の団体）の皆さんに複製して配り、大変感謝されたものである。

さて、いよいよ集結する日がやって来た。
3月中旬の晴れた日であったと記憶しているが、居留民団が手配して

くれた大八車が到着して、荷物の積み込みが始まったが、各自持てるだけの荷物であるから瞬間に終わり、医師や鉄道関係の管理者、技術者等の日籍留用技術人員として帰国を後回しにされた、4軒の皆さんの見送りを受けての出発となった。

大八車を押しながら、ぞろぞろ移動する私達を、中国人達が物珍しそうに、道路に沢山出て来て眺める中を、口惜しさと恥ずかしさで下を向いて大八車を押し、集結地である朝陽門外の、とある古寺に到着した。

ここで、各地区から集まって来る邦人家庭を待ち、一晩宿泊した翌朝、人員の照合と荷物の検査を受けた（この時荷物検査に立ち会った中国人巡査が、自分達の欲しい物を好き勝手に抜き取ったが、それを見ているだけでどうすることも出来なかった。）後、隊を組んで有蓋貨車に乗り込み、北京駅の一つ手前の東便門駅から天津市に向けて出発した。

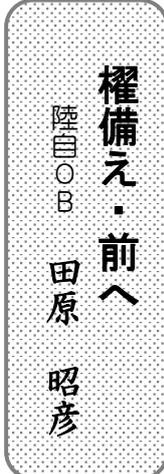
天津の旧日本陸軍貨物廠

貨車が着いた所は、広大な敷地の貨物廠であり、大きな倉庫には膨大な物資が山のように積んであった。よくこのように大量の、あらゆる物資が貯め込んであるものと、びっくりした。倉庫に入り切らずに、野積みになってある米等は、アンペラで覆われており、そのアンペラも、ところどころ破れている。此処に沢山の蒲鉾小屋が立ち並び、引き揚げ船待ちの人達で、満員の状況であった。

板とアンペラで囲っただけの細長い小屋は、2間（3.64m）に10間（18.2m）大ききであり、床にはアンペラの上に、旧日本軍の布団が敷き詰められており、2、3か所の明かり窓があるだけなので薄暗く、この為夜寝る以外の時間は、殆んど外で遊び回っていた。

ただ、午後3時には必ず帰り、日に1回、旧日本陸軍の給水車が回って来るのを待ち受け、バケツ1杯の給水を受けるのが唯一の仕事であった。これを貰い損なうと、翌日の午後まで飲料及び炊事が出来ないことになる。

貨物廠の周囲は、鉄条網で囲われており、その外には中国人の物売りが、色々な品物を揃えて売っており、もう中国のお金は必要ないからと、沢山のお金を貰った子供達が、色々な食べ物を買って食いついて、夕食の粟粥には見向きもせず過ぎ去っていた。
次号に続く



權備え・前へ

陸自OB 田原 昭彦

大正7年（1918年）に流行が確認されたスペイン風邪から約100年後。令和2年（2020年）に国内でも感染が確認された新型コロナウイルス感染症パンデミックは、いつ収束するのでしょうか。私達は何をすれば今の状況が改善され、前

に進むことができるのでしょうか。いつの時代も非常時には、強いリーダーシップが求められます。どんな組織にも。

初めて、「隊友よこはま南」に投稿させて頂きました。私は陸幹校78期、職種は普通科でした。今年4月から横浜南支部での役割を頂き、横浜南支部の皆様と少しずつ活動を一緒にさせて頂いています。

諸先輩がいらっしゃる中での投稿で、正直何を書けば良いのか迷いましたが、横浜南支部で活動をさせて頂く上でどうしても触れたい内容がありました。それは、令和2年3月22日の防衛大学校卒業式における自衛隊最高指揮官安倍内閣総理大臣の訓示です。横浜南支部の皆様は既にその内容をご存知かも知れませんが、あえて取り上げさせて頂きました。

卒業式で安倍総理は、新型コロナウイルス感染症の影響で家族や来賓の臨席のない、防衛大学校史上初めての卒業式となった卒業生への想いに触れた後、クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」や1995年3月に発生した地下鉄サリン事件における隊員の活躍を賞賛し、「事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に努める。その時のために、一日一日に、そして一つひとつの訓練に、全力を傾ける。地道な努力を積み重ね、平素からの備えを万全とすることの大切さ」を卒業生に語りかけました。また、厳しい国際環境の中で「指揮官として臨む様々な局面においても、過去の経験が通用しない中で、判断を下さなければならぬことがあり、世界に広く目を開き、的確な情勢分析の下で、大局観を持って決断する幹部であってほしい」と、リーダー像を述べられました。そ

して、日米同盟を真に実効性にあるものにし、その強化に向けて日本の果たすべき役割の拡大を図っていかれるかどうかは、未来ある幹部自衛官の双肩にかかっているとも述べられました。そして、「もはや、どの国も一国のみで自国の安全を守り切れない時代にあつて、自由で開かれたインド・太平洋の実現は、この地域全体の平和と繁栄の礎」と言い切り、そのための自衛官の役割は益々重要であるとし、その上で、次の話を続けられました。

「インド洋の西の端、ソマリア沖アデン湾では、50度を超える灼熱の中で、4千隻を超える船舶の護衛に、汗を流す諸官の先輩の姿があります。この地において、遡ること10年あまり、五島浩司司令率いる40名の隊員たちが、我が国初となる海賊対処活動に臨みました。

漁船には、機関銃やロケットランチャーを装備した海賊が潜んでいるかもしれない中で、艦船と艦船の対峙を前提とした従来のやり方は、一切通用しません。随時報告される被害情報に、不安な表情を浮かべる隊員たちを前に、司令は、呼びかけました。これまでの任務とは、全然違う。みんな考えていこう。

作戦会議には、若い士官を参加させ、階級の別なく、時には激論を交えながら、新しいアイデアを積極的に取り入れました。上意下達の雰囲気を一掃すべく、いつでも誰でも意見できるよう、船内をくまなく歩い

て、全ての隊員に話しかけたそうです。

他愛のない会話の中から、攻撃された場合の緊急旋回の角度、それに必要な直線航行距離。海士や海曹から、最前線ならではの気付きが寄せられました。いつしか、隊員たちの不安は高い士気へと変わり、現地到着の直前まで、ひたすら訓練と作戦要領の修正を積み重ねました。

その後も、作戦要領には、隊員たちの知恵と汗が結集され続けています。そして、10年以上経った今なお、一隻の被害も出さずことなく、この地域の安全な航行が保たれています。」

そうです、この「五島浩司司令」は、私達が所属する横浜南支部の支部長です。初めての投稿でどうしても触れなかったのは、隊友会横浜南支部長五島浩司さんのことでした。

安倍総理は、経験したことのない任務が課せられる自衛隊において、一人一人の力を存分に発揮させ、新しい道を一丸となつて切り拓く、真の意味で高いリーダーシップを発揮する姿を五島司令に見つけたのでした。

五島さんは自衛隊を退官後のある講演会で海賊対処活動について、海上自衛隊の任務として初めて人（海賊）に対して引き金を引かなければならない場合が想定されること、その任務に終わりが見えないこと、そして気温や砂塵、娯楽のない劣悪な環境でストレスは相当であったが、そのストレスも護衛をした商船等から送られてくる感謝のメッセージで何とか克服す

ることができたと話されました。そして隊員とのエピソードに触れ、突然の事故で父親を亡くした若い隊員に帰国を勧めたが、「はい」と言わずに気丈に振る舞っていた。その後彼が居なくなり、船内を捜していたら人目に付かないところで号泣していた。話を聞けば、父親から出港前に「お前のことを誇りに思う」と言われたことで任務を優先し帰国はしないと堅く心に決めたが・・・と話してくれたそうです。また、ある19歳の若い隊員が「日本って、素晴らしい国ですね。」と言うから、暑さで頭がおかしくなったのかなと思ったら、日本では24時間蛇口をひねれば水が出るし停電もしないと日本の良さを話してくれたそうです。あんなにきつい任務に就きながら日本の素晴らしさやありがたさを感じてくれていたことを嬉しく思ったそうです。そして、日本を愛し、親を想いながら過酷な任務に就くこの若者達を見て、日本も捨てたものではない、今時の若い者と言うけれど「あっぱれ」なんですと話し、こんな素晴らしい若者、そして、苦楽を共にしてくれた素晴らしい部下が居てくれたからこそ任務を完遂することができたと、感謝の気持ちで講演を締めくくられました。

百年に一度のパンデミックの時代に生きている私達の生活は、何時になったら元に戻るのでしょうか。否、もう戻れない状況も考えた時、先が見えない状況にストレスが溜まります。第二の人生も区切りが付き、今後は隊友会横浜南支部での活動を楽しみにしていた私ですが、今までと違う状況の中でこれから隊

友会

広告の募集

当機関紙の掲載広告を募集しております。サイズ及び料金は下表のとおりです。

広告規格 (A4 枠内)

サイズ	料金・円
全面	50,000
1/2 面	25,000
1/4 面	15,000
1/8 面	10,000
1/16 面	5,000

注：年2回定期発行紙に掲載します。



下記の HP から各県隊友会の HP を見ることができます。
<https://www.taiyukai.or.jp>

心に残る
楽しい旅を
 クリエイトする

株 マツスイスト企画

横浜市南区永田北 2-5-7
 代表取締役 川越直司
 ☎・FAX 045-715-1024

友会にはどんな活動をしていくのか、隊友会には何が期待されるのか、少し迷うところがあります。

令和3年3月15日の「隊友よこはま南第44号」に、副支部長・事務局長の渡邊さんは「アフターコロナの隊友活動」と題して投稿され、コロナ禍にあっても脅威なのは日本人の国防意識の欠如だと指摘し、その背後には戦後の日本人の歴史観があり、だからこそ自衛隊を認める憲法改正が課題だとし、横浜南支部の活動として、日本人の「防衛意識高揚」のため「会員一人一人がそれぞれの活動の場で意識しながら情報発信する努力」が必要だと述べられています。また、「自衛官制度を把握した上での募集支援」と「特別会員の方々との交流機会を増やすことによる地域社会、地域市民との連携」の三点をアフターコロナの活動の視点・私点として述べられています。

長引くコロナ禍、まさしく経験したことのない状況が課せられる隊友会にあって、横浜南支部一丸となって新しい道を切り拓くことが必要になってきています。幸運なことには横浜南支部は、卓越したリーダーシップをお持ちの仁愛豊かな五島さんが支部長です。これからまずと五島支部長のリーダーシップの下で、渡辺事務局長が投げかけられたテーマに「みんな考えていく」ことが必要になってきているのだと感じています。月一回の「隊友」新聞発送のお手伝いしかできていない

私ですが、横浜南支部の一員として、皆さんと、ある時は「他愛のない会話」から「気付き」、ある時は「激論」を交わして「新しいアイデア」を見つけ、一緒に「権」をこいで参りたいと思っています。今後ともよろしくお願ひします。

引き継いだ着物

陸自予備自衛官 岩澤 亨

昨年秋に実家の母から電話がありました。「父の着物があるので持っていくなさい」とのことでした。私は趣味で居合をやっているので大会への参加や奉納演武などで紋付袴は着ることはありますが、普段は着物を着ることはありませんでした。本郷台にある実家は母と妹の家族が二世帯住宅を建てて住んでいましたが、甥が結婚し二階に住むことになりました。父が一階に降りることになりました。父が亡くなってから母が一人で住んでいた一階を整理すると、父の荷物特に背広、本、陶器類、レコード等が沢山あり母の不用品をかなりの量でした。業者を呼んで処分しましたが四トロン車で三台分にもなりました。私が引き継いだ着物や浴衣も十七枚ほどあり実家に残っていた自分の荷物も一緒に車に積んで持ち帰りました。私も知らなかったのですが着物というのは作り直すことができます。洋服は着る人のサイズに合わせて生地を裁断して仕

立てるため、サイズを小さくすることはできても大きく作り直すことはできません。これに対して和服は反物を定められた方法で八枚に裁断し、余った部分は見えない様に縫い込んであるため、解いて縫い直すことによりサイズをある程度大きいものに変更することが可能です。

私が引き継いだ着物は大伯父、伯父、父、私と実に四代目になるものもあります。戦争で焼けなかったこと、伯父も父もあまり着物を着なかったことで良い状態で残っていました。一番古いものは米国で暮らしていた大伯父が大正時代後半に帰国した時に仕立てたもので百年前の大島紬です。新しいものは父が私に作ってくれていた大島紬や結城紬などがあります。現在の大島紬は撚糸を使っていますが、大伯父の大島は細糸を使っているのに実が良い風合いを持っています。しかしながら、経年の劣化は否めず、裏地などは引張るとすぐに裂けてしまう状態でした。紬の劣化もあり私の代で限界の様でした。そこで手入れをしてくれるお店を探したのですが、中には見積もりと言つて着物を三ヶ月も返さず高額な着物をしつこく勧める悪質なものもあり、店選びが重要であることが分かりました。弱った生地を丁寧に扱ってくれるお店ということで検討した結果平塚にあるだるまやで洗い張りをしてもらいました。洗い張りとは着物を解き、縫い合わせて再び反物に戻して、水洗いの後糊付けし仕立て直す作業のことです。その時、問題となったのは高校

不動産の管理・仲介・売買

不動産のことなら

(株) 山野井

営業時間 AM9:00~PM7:00 定休日:水曜日

□本社・タウンサイト店
〒233-0002 横浜市港南区上大岡西 1-13-23
TEL.045-843-2882・5700/FAX.045-845-0550

ゆめおおおか店
〒233-0002 横浜市港南区上大岡西 1-6-1
TEL.045-845-1818/FAX.045-845-1813

□屏風ヶ浦店
〒235-0023 横浜市磯子区森 3-18-5
TEL.045-751-4191/FAX.045-751-4114

飲んで歌って踊れる店

有限会社 館グループ

パフ藝 (あおい)
天王町駅前店 ☎045(333)7864

スナッククラウン
洪福寺店 ☎045(316)2025

ミュージックパフ
館(やかた)本店 ☎045(313)1289



時代にハンドボールをやっていた私の手の長さです。現在の反物は巾三十八センチですがこの昔の大島は三十四センチしかないため襟の中の折り込みを袖に持つてくる『ハギ』を作り仕立ててもらいました。背中の中心から手首のまでの長さである桁は理論的には反物の中から二センチを引いて二倍にした長さで、この大島では最長でも六十四センチとなり十センチ足りないため『ハギ』も仕方がないと判断しました。仕上がった着物は仕立てがともよく気に入りました。どこかに着て行きたいのですが、コロナの影響でなかなかチャンスが無いのが残念です。その他の着物も以前鎌倉で着物のお店をやっていた方にお願いでして順次サイズを直しています。花火大会、紅葉見物、初詣、花見など着物を着ていきたいところは沢山あり、想像するだけでも楽しいものです。

皆さんもご自宅に着物があれば袖を通してみてはいかがですか。ちよつと素敵な着物ライフが体験できるはずです。

私の本棚
海白OB 石橋 啓志

現役の際は転勤が多かったので、重い引越荷物避けたいところですが、本を入れた段ボール箱がいくつもありました。退役前に落ち着いた現在のマンション、一室は私の部屋で、本棚には現役時代に読んだ30年以上前の本も残っています。再就職先で勉強した実用書もまだ本棚の一角を占めています。リビングの本棚には、子供向けの本が残してあります。「絵本」「偉人の伝記」「図鑑」等々、孫たちは読んでもくれるものやら。私の読書は、「つんどく(積読)」が結構多い気がします。気になった本を購入はするのですが、一気に読み終えるのは稀で、そのうちに・・・と中途半端で本棚に。そんな本たちが処分されずに30年以上も残っているというわけです。まだまだと終活は先延ばしにしていますが、先日、少したけ本棚の整理をしました。これまで何に興味を持って生きて来たのか？自己分析ができそうでした。ずいぶん前に読んだ本ですが、パラパラと読み返してみると、本の内容が思い出され、当時のことがよみがえることがあります。こんな読書の仕方もあるの活活性化に役立ちそうだと思います。

いま私が熱中しているのは、「横須賀シニア劇団よっしゃ！」の活動です。2019年7月に、「神奈川県共生共創事業」のチラシを見て応募しました。

週に2回の稽古があり、コロナ禍で対面稽古が出来ない時は、Zoomリモートで稽古を続けました。2年過ぎましたが、もう4回も舞台上に立ちました。ここ2回は無観客公演でしたが、宮沢賢治が題材の作品に出演しました。芝居のために、宮沢賢治に関する本を何冊か読みました。本棚にあった本です。昔から縁があったのでしょうか。「注文の多い料理店」は、宮沢賢治が生前に出版した唯一の童話集です。収録されている短編童話の数々は、多くの子供たちの興味を引くものとは思えませんでした。今回、役作りのために宮沢賢治の伝記を読み、生立ちや家庭環境等を知ると腑に落ちるところもあります。また、少しばかり芝居をかじったせいでしょうか、登場人物達(人間に限らず)がそれぞれのキャラクターで語り掛けてきてくれます。

今は、図書館の本を借りるのも、PCで蔵書検索して申し込めますし、他の図書館の蔵書を最寄の図書館で受け取ることもできます。幸い、最寄の図書館までは、バスを利用すれば15分ほどで行けます。「青空文庫」では著作権の切れた本(夏目漱石や芥川龍之介といった名作本)なら自宅にいてPCで読むことが出来ます。

まだまだ、コロナ禍で外出がはばかられるご時世ですが、今回の投稿を機に、いろんな時代や場所に連れて行ってくれる読書の楽しさを思い起こさせていたいただきました。ありがとうございました。

隊友会を応援します！

 **光洋システム株式会社**

* 事業内容

- ・ ITソリューション システム事業
- ・ アプリケーション システム開発事業
- ・ 組み込みシステム開発事業

代表取締役社長： 兼俵 和夫

◎ 所在地
〒220-0004
横浜市西区北幸2-15 東武横浜第2ビル
URL: <http://www.koyo-sys.com>
TEL: 045-313-3393

造園・緑化

株式会社 **濱田園**

代表取締役 あいほら 粟飯原 吉伸

〒232-0066 横浜市南区六ッ川 3-3-1
☎: 045 (741) 3215 FAX: 045 (741) 3464

東京五輪と大相撲

海自OB(事) 大沼 肇

長期化するコロナ禍の影響により一年おくれの逆風の中、なんだかんだ・すつたもんだしたものの東京五輪は7月23日開幕した。外出自粛で多くの国民はTVの前に陣取り、くぎ付けになって連日応援したことだろう。

私もその内の一人、何よりも時差がないのはありがたかった。まずは、競技開幕戦として、7月21日横浜スタジアムから始まった「女子ソフトボール日本代表チーム」にチャネルを回した。その活躍は目覚ましく、特にエースの上野由岐子投手のピンチになっても動じない迫力ある見事なピッチングは頼もしく素晴らしく感動した。そして堂々と「金」に輝いた。続いて柔道・競泳・卓球等々。特に印象に残っているのは、25日の卓球混合ダブルスの準々決勝に水谷隼・伊藤美誠組とドイツペアの熱戦は見応えのあるゲームで手に汗握って見入ってしまった。フルゲームにもつれ込んだ最後の第7ゲームは何と2対9から追い上げ16対14で競り勝ったのである。最後まであきらめず集中力を保ち続けた姿勢が大逆転勝利を招いたのだでしょう。その瞬間、喜びを爆発させた伊藤選手は、涙を押さえきれず、ドイツの男子も涙を流していた。この水谷・伊藤組は、26日の決勝でも強敵中国ペアに逆転勝ちして、卓球で日本勢初の金メダルを獲得しました。勝つ

ての涙、負けての涙の光景は、辛く苦しい練習に耐え、試練を乗り越え、この本番で全力を傾注したからこそ見せられる美しい姿でした。国籍や民族などの壁を越えて険しい道程を経て、ひたむきに栄光ある「金」に向かって真摯に取り組み選手たちのあの爽やかな涙には、ここでも感動を誘われ胸が熱くなった。

このフェアな東京五輪にくらべて大相撲はどうだったか。開幕3日前の7月18日は、私ばかりでなく日本国中の相撲ファンが注目した大相撲の一番がありました。それは名古屋場所千秋楽の横綱白鵬と大関照ノ富士の14戦全勝同士・相星対決の優勝戦で、愛知県体育館は湧きに湧いていました。それでは、実況放送の形で両者の取り口を見てみましょう。仕切りの中から白鵬の数十秒の長い睨み合いがあつて照ノ富士をじらしているのがよく判る。制限時間一杯、軍配が返り立ち上がった。ここで白鵬は、いきなり右肘で照ノ富士の顔面めがけての打ち上げを見舞わせる。肘を相手のあごにぶつける乱暴な技である。続けて数回にわたつての張り手、張り手。共に反則技ではないにしても、番付最上位の力士が優勝を決める大一番だっただけに・・・このなりふり構わぬ荒々しく打つて出た白鵬は、照ノ富士に取られた前まわしを懸命に切つて距離を取つて、また張り手。右四つに組み止め、左上手の体勢から上手投げが不発に終わると強引ともいえる力づくでの小手投げに照ノ富士を仕留

めた。

白鵬にとつてこの荒々しい取り口は、十八番かも知れないが、こんな戦法で相手を倒すなんてまるで『けんか相撲』ではないか。国技大相撲ではない。横綱としての品位がかけるも見られない一番となった。うがった見方は場所中、常時付けていたが、かち上げの為の武器なのか。見るに耐えない粗暴な相撲だった。この日私達ファンは多くは、相撲の道を極め合うものと思つて、めつたにない大一番に期待をこめ固唾を呑んで見守つていただけに横綱がこのような相撲をとるとは・・・全く裏切られた後味の悪い期待外れの一番に終わってしまった。

それに、勝負が決まった後の白鵬の派手なガッツポーズは、一体何だったのか。これも、今後物議を醸すと思う。前述した通り、毎場所もこの名古屋場所でも白鵬の取り口に張り手がみられたが、対戦力士は誰一人として横綱に対してこの手を使わない。それを白鵬はいい気になっている。これから、白鵬の専売特許にさせてはならない。やられたらやり返せといいたい。振り返つて千秋楽の結びの一番は、以前から各界の有識者が言われる通り白鵬の礼節と品性の欠如、つまり彼人間性を現した一番だった。『強者は謙虚であれ』と私は言いたい。そして、東京五輪やパラリンピックに出場したアスリート達から学ぶべきものがあると思う。そこには、フェアなスポーツマンシップが見られ、終わったあ

との爽快な気分させる希望と勇気があるからだ。白鵬のあんな相撲を見ていて次代の子供たちは、どう思つていただろう。与えた影響が心配である。モンゴル勢が大相撲界に入ってきてから本来の相撲は、どこかへいつてしまったような気がしてならない。横綱審議委員会の有識者先生方・相撲協会の役員方は、大いに前向きに反省して前進していつてほしい。即ち、単なる興行(巡業)だけでなく、『礼に始まり、礼に終わる』キチンとした相撲道を復活させていつてほしいものです。

伝統ある国技相撲道確立の為に。あえて苦言を呈したことはお許しいただきたい。ここで、一縷の光明が差し込んだことをご紹介しましょう。それは、怪我と病気で大関から序二段まで番付を落としながら奇跡の劇的な復活を遂げ7月21日、令和初の第73代横綱として正式に誕生した照ノ富士が昇進伝達式で『不動心を心掛け横綱の品格・力量の向上に努めます。』と口上を述べています。

神奈川地本便り

隊友会横浜南支部の皆様及び隊友よこはま南をご愛読の皆様、平素より自衛隊神奈川地方協力本部に対するご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございます。ご承知の方もおられるかと思いますが、令和2年度の業務功績が認められ、自衛隊神奈川地方協力本部として、27年ぶりに防衛大臣から第1級

賞状を受賞しました。重ねて、皆様のご支援の賜物と感謝申し上げます。

さて、私は、令和3年3月より募集課長を拝命しました栄谷と申します。前職は、陸上自衛隊の本社である陸上幕僚監部で予算の編成・執行に関する職務を実施しておりました。地方協力本部勤務や募集業務は初めてですが、夏井本部長の強いリーダーシップのもと、微力ながら神奈川県内の自衛官募集業務に尽力しているところです。今回は、記事投稿の機会をいただいたので、日頃の募集業務で考えている事項について何か話をさせていただきます。

まず、一番に感じているのが、就職活動を実施している受験者の皆様を応援したいということです。私は、筆記試験や面接等で受験者と接することも多いのですが、不安と戦いながら一生懸命に受験する若者の姿に胸を打たれ、私自身も一人の大人として心から応援したい、本人が希望する仕事に就いて欲しいと願うものです。立场上、大きな声では言えませんが、それが自衛官でなくても構わないと思っています。ただ、それが自衛官であった場合や自衛官という仕事に少しでも興味がある場合は、これ以上の喜びはなく、私以下、県内12箇所にある出張所等の広報官をもって、受験にあたっての情報提供や入隊にあたっての不安除去等、全力でサポートに当たらせていただいています。そのような考え

で勤務しているもので、自衛官という職業に少しでも興味がある方は、迷うことなくまずは連絡をいただければと思います。すぐに担当広報官が伺います。

また、次に感じているのは、我々の仕事は皆様に支えていただいているということだと思います。私の主業務である募集に関して様々な協力をいただいているのはもちろんのこと、市街地広報として駅前やティッシュ配りをしていく際にも、地域の皆様から「自衛隊かっこいい」「応援しています」「災害派遣ありがとう」等、自衛隊全体に対する心温まるお声掛けを頻りにいただきます。国や地域を支える組織である我々自衛隊のほうに、実は地域の皆様に支えられているのだと気づき、深く考えさせられました。

終わりになりますが、昨今のコロナ禍により、イベント等もなく、なかなか皆様と接する機会も少ないですが、これからも地域のために尽力してまいりますので、引き続き、自衛隊神奈川県地方協力本部をよろしく願います。

なお、公式HP及びツイッターにおいて、募集情報のほか、自衛隊の活動状況等を逐次情報発信しているため、よろしければご確認ください。

神奈川県地方協力本部
TEL:045-662-9429



神奈川県本ホームページ



神奈川県本



会費等納入促進のお願い

会員皆様には、本紙「隊友よこはま南 特集号(R.3.6.1)」で、年会費と寄付金の納入について「払込取扱票」を同封しお願いしています。また年会費納入がお済でない方はぜひ納入をお願いいたします。特別会員1万円、年会員3千円です。また、ご寄付につきましては年会員及び終身会員の皆様に「横浜南支部機関紙運営資金」の名称で寄付金の納付をお願いしています。



9月10日現在、年会費納入状況は、特別会員61.7%、年会員58.7%であり、まだ十分な状況には至っておりません。寄付金は67名の方のご賛同を賜っています。年会費と寄付金は隊友会横浜南支部の円滑な運営に欠かせないものであり、会員皆様のさらなるご協力をお願い申し上げます。

横浜南支部会計担当 吉田

事務局便り

1. 会員情報(敬称略)

- (1) 新入会員 (氏名・出身・区)
- 鈴木 直栄 陸 戸塚
- 國見 龍我 陸 港南
- 鷺尾 孝 陸 南
- (2) 訃報 (氏名・享年・出身・区・逝去)
- 山中 隆之 93 陸 戸塚 2. 12
- 古藤 雅樹 89 空 磯子 2. 12
- 幸田 正仁 98 海 栄 3. 2
- 藤川 耕一 82 海 保土ヶ谷 3. 4
- 今田 知之 94 空 栄 3. 5
- 野村 秀男 72 海 泉 3. 5

2. 連絡事項

各種情報が神奈川県隊友会のホームページから発信されています。ご活用下さい。また、メールアドレスを連絡頂いた方に、支部からも各種情報をアウンスしています。支部からは、携帯のメールサイズを考慮して内容をコンパクトにして送信しています。メールアドレスをお持ちの方は、是非、事務局 subsortorp21@yahoo.co.jp までご連絡下さい。

何らかの障害で、以前は来ていたのに最近届いていないという方もあると思います。そのような場合は、恐れ入りますが前記アドレスまでご連絡をお願い致します。

編集後記

覇権、強圧的な中国の台頭と内在する危うい経済状態、対するクアッド、オーカスの包囲網、世界は激動の渦へ、日本の進むべき道は？

編集子